

皆さん、おはようございます。早いもので新年度が始まり、約1か月、5月になりました。学校を囲む山々は新緑に包まれました。暑さを感じる時もありますが、時折、心地良い風が吹いてくる素晴らしい季節になりました。1年生の皆さんも、ようやく学校に慣れ、少し大変さを感じながらも、仲間と共に楽しく登校するようになってきたことと思います。

さて、連休前のことですが、栃木市役所の方がいらして、栃木市に市立美術館と文学館ができる、美術館は秋頃に開館の予定ですが、4月27日に文学館が開館になったというので行ってみました。開館を記念して栃木市出身である3人の作家の特別展がありました。1人は約10年栃木に在住し、現在の栃木女子高校出身、大正から昭和にかけて活躍した作家吉屋信子、多くの作品が、当時、映画化、テレビドラマ化されました。そして、他の2人は、栃木市生まれの詩人柴田トヨ、作家山本有三です。

この2人について少し語ります。柴田トヨですが、以前、本校でインタークトの県大会があった時に、息子の健一さんに講演をお願いしました。ちなみに、2013年にはご本人の半生を描いた映画も作られました。本人は八千草薰、息子を武田鉄矢、子供の頃を芦田愛菜が演じました。その柴田トヨに関してですが、2010年、99歳の時『くじけないで』という詩集が出版され、新聞やテレビで紹介されると反響を呼び、世界数カ国で翻訳、累計160万部を突破し、詩集としては異例のベストセラーとなったのです。戦争や関東大震災を経験し、必死に生きてきた過去、現在、そして自身の老いを見つめ、何気ない、ありふれた言葉で、素直にその心情を綴っています。例えば、タイトルになっている「くじけないで」の一節にはこうあります。「ねえ 不幸だなんて 溜息つかないで 日射しやそよ風は えこひいきしない 夢は平等に見られるのよ 私 辛いことが あったけど 生きていてよかつた あなたもくじけずに」、99年の人生から出た言葉です。どのようなことがあっても常に前向きに生きていこうという姿勢と全ての人々、物事に対する優しさがあふれている詩は、ちょうど2011年東日本大震災で被災した人々を勇気づける言葉としても注目されました。

次に山本有三ですが、栃木市内の小中学校に通っていた人なら、ほぼ全員がその名を耳にし、作品のことも先生方から語られたでしょう。栃木市の山本有三記念作品コンクールで、作文や絵を応募した人もいると思います。山本有三は、小説家、劇作家、そして政治家でもありました。が、何と言っても有名なのは、代表作『路傍の石』の中の台詞です。その言葉を記した石碑が、栃木駅北口と太平山にあるのを知っていますか。それは、「たった一人しかない自分を、たった一度しかない一生を、本当に生かさなかったら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか」です。この言葉は、主人公の吾一少年が、友達同士で自慢話をしている中で、後に引けなくなり、意地を張って川の上にある鉄橋にぶら下がりました。汽車が迫ってきましたが、もう少しの所で機関士が吾一を発見し、汽車を止め、吾一は助かりました。その吾一に担任の次野

先生が言った言葉だったのです。その言葉の前には、「人生は死ぬことじゃない。生きることだ。これからのは、何よりも生きなくてはいけない。自分自身を生かさなくてはならない」とあり、それに続いて先ほどの一節が来るわけです。私も小学生の時に、『路傍の石』の本を読みましたし、映画も観ました。正直、話の中身よりもこの言葉だけが、ずっと心に残っています。私の60年以上に渡る人生において、どこか心の拠り所にしていたのかもしれません。

ところで、ここ数年、SNSに誹謗・中傷が書き込まれ、大きな問題となっています。残念なことに、それが原因となるいじめ問題も多々起きています。それによって心を痛め、命を絶った人もいます。言葉によって人は傷つくことはあります。しかし、言葉によって慰められ、励まされることも事実です。場合によっては、その言葉によって救われたり、影響を受けたり、人生を大きく変える場合もあります。

皆さんも、本を読んだり、映画を観たり、音楽を聴いて、心の糧とまでは行かなくても、元気が出るものがあると思います。思い出してみて下さい。例えば、チャールズ・チャップリンの『ライムライト』という映画ですが、怪我をして踊れなくなり絶望して自殺しようとしたバレリーナ、彼女を助けたのは年を取り落ちぶれてしまったチャップリン演じる道化師でした。その彼が彼女を励ます言葉です。「人は死ぬことと同じように、避けられないことがある。それは、生きることだ」。また、歌では、以前、終業式で紹介したもので「死んじまいたいほどの苦しみ悲しみ そんなものの一つや二つ誰もが ここあそこにしょい込んでいるもの 腰を下ろしふさぎ込んで 答えは nothing くよくよするなよ あきらめないで just like a boy その痩せこけた頬のままで 果てしない迷路の中を 人はみんな手探りしてでも STAY DREAM」というものもありました。

話は変わりますが、3年近く前、栃木市が台風19号に襲われ、大きな被害を受けたことがありました。その時、私の近所のショッピングモールが、ひどい状況になり、毎日、テレビのニュースで報道されました。それを観たという友人たちから、何本も電話があったり、メールがきました。中には何年も音沙汰なしであった友人もいました。共通していた言葉は、「大丈夫?」でした。それほど大きなものではありませんでしたが、実際に私の家も被害は受けており、その「大丈夫?」の一言に心が救われ、元気が出たものです。心配してくれたことを言葉で直接伝えてくれたことは、しっかりと心に届き、何よりも有り難く思いました。やはり、一番の言葉の力は、直接伝える人の言葉です。

言葉、これには大きな力が宿っています。「樹木は光を浴びて育つ、人は言葉を浴びて育つ」と言われます。何も難しく考えることはありません。「おはよう」「こんにちは」「さよなら」、いつもの挨拶でよいのです。これも言葉です。互いにプラスの言葉を掛け合いながら、言葉の力を信じて、心強く、心豊かに人生を送っていきましょう。